							観測、	機器開を利用し	発、	計	画期間		新規·拡	充 平成	戊25年度	実施方	針の該当	6箇所						分野別	の推進	単戦略で記	該当する	らもの					
担当															第1章	章			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11		-地	4 1	15
省庁	項目名	取組の概要	関連事業名	実施主体	観測対象	観測地点	観測	機器開発	データ 利用 研究	始期	~   1	終期	新規拡	充 第1	第2節	第3節	第2章	第3章	温暖化	地球 規模 水循環	地球環境	生態系	風水害	大規 模火 災	地震・ 津波・ 火山	エネル ギー・ 鉱物 資源	森林 資源	農業資源	海洋 生物 資源	情報と関す	川用 学に 気象 する 海多 地理 情報	泉 地象 科	也球斗学
総務省	次世代ドップラーレーダー技	突発的、局所的気象災害の予測や災害対策のため、その原因となる局地的大雨、竜巻突風等を10 秒以内に立体的に観測可能なフェーズドアレイ気象レーダを開発。	リージョナル電波センシング	情報通信研究機構	降水	観測点を中心 とした半径 30km圏内		0	0	H 20	~ H	27	C	0									0								0	)	
総務省	降雨システム観測技術の高機 能化	偏波降雨レーダ(COBRA)などの降雨システム観測 技術を高機能化する。	リージョナル電波センシング,水 災害軽減に向けた総合的基礎 研究	情報通信研究機構	降水	沖縄県内	0			H 14	~			0						0			0								0	)	
総務省	日本実験棟「きぼう」(JEM)搭	オゾン及び微量ガス濃度の全球分布を計測するための国際宇宙ステーション(ISS)/日本実験棟「き		情報通信研究機構 及び宇宙航空研究 開発機構	大気微量成分の高度分布(オゾン、 塩素化合物他 11 種類)	全球			0	H 21	~						0				0												
文科省	載用サブミリ波リム放射サウ	ぼう」(JEM)搭載用超伝導サブミリ波リム放射サウンダ(SMILES)により観測されたデータの解析・分析を継続する。	_	情報通信研究機構 及び宇宙航空研究 開発機構	大気微量成分の高度分布(オゾン、 塩素化合物他 11 種類)	北緯65度~ 南緯38度	0			H 21	~ Н	25		0	0				0		0											(	0
総務省	雲エアロゾル放射ミッション (EarthCARE)	雲エアロゾル放射ミッション(EarthCARE)	グローバル亜油センベング	宇宙航空研究開発機構、情報通信研究機構、欧州宇宙機関		全球	0			H 17	~				0			0	0	0											0	)	
文科省		EarthCAREプログラムのコアセンサーである雲プロ ファイリングレーダ (CPR)の開発。	_	宇宙航空研究開発機構、情報通信研究機構、欧州宇宙機関		全球		0		H 20	~			0	0			0	0	0	0		0								0	) (	0
総務省	全球降水観測計画衛星	全球降水観測計画衛星(GPM)	グローバル電波センシング	宇宙航空研究開発機構、情報通信研究機構、米国航空宇宙局	降水	全球	0			H 12	~				0			0	0	0											0	)	
文科省	(GPM)	全球降水観測プログラムのコアセンサーである二 周波降水レーダ(DPR)の開発。	_	宇宙航空研究開発機構、情報通信研究機構、米国航空宇宙局	降水	全球		0		H 13	~			0	0			0		0	0		0								0	) (	0
文科省	都市圏における複合水災害 の発生予測に関する研究	極端気象の観測・予測技術の研究開発および極端 気象に伴う水災害の予測技術の研究開発を行う。	観測·予測研究領域	防災科学技術研究 所	雲、降水、風	首都圏	0		0	H 23	~ Н	27	C	0									0										
文科省	気候変動に伴う極端気象に強い都市創り		気候変動に伴う極端気象に強 い都市創り	防災科学技術研究 所、気象研究所、東 洋大学など24機関	降水、風	首都圏	0		0	H 22	~ Н	26		0									0										
文科省	将来の気候変化の予測モデ ル及び生態系の予測モデル の高精度化	将来の気候変化の予測モデル及び生態系の予測 モデルの高精度化に寄与するため、海底堆積物等 に記録された過去の環境を復元し、長いタイムス ケールの気候変動伝播のメカニズムを明らかにす る。	_	海洋研究開発機構	堆積物	オホーツク 海、ベーリン グ海、下北 沖、東赤道太 平洋、南太平 洋チリ沖	0		0	H 16	~			0					0		0	0											
文科省	衛星観測による植生物理量 の推定アルゴリズム開発		JAXAのALOSやGOSAT, GCOM関連のRA、環境省地球 環境研究総合推進費(S-9及び F-1101)	海洋研究開発機構	森林の物理量(パイオマスや葉面積指数)	アラスカ, モン ゴル, 東シベ リア	0		0	H 19	~			0								0											
文科省	深海生態系における多様性、 生態、進化、機能に関する解析	深海生態系における多様性、生態、進化、機能に 関する解析を進める。	BISMaL	海洋研究開発機構	海洋に生息する生物・微生 物の諸データ	国内外の各海域	0	0	0	H 16	~			0							0	0				0							
文科省	海洋生物の情報整理・畜債・ 提供、国際枠組みとの連携	調査航海や関連研究活動で得られたデータを対象に、Biological Information System for Marine Life (BISMaL)を構築・運営し、海洋生物の情報整理・蓄積・提供を行うとともに、IODE傘下の国際的なデータベースであるOBIS等との連携を推進する。	IS-9、「果北マリンサイエンス	海洋研究開発機構	海洋に生息する生物・微生 物の諸データ	- 国内外の各 海域	0		0	H 21	~			0								0											

							観測	機器開き利用し	発、	計	画期間		新規·拉	充 平	成25年	F度実施:	方針の該	当箇所						分野別	の推進	戦略で記	亥当する	もの					
担当	項目名	取組の概要	関連事業名	実施主体	観測対象	観測地点			データ						第	[1章			1	2	3	4	5	6		8 エネル			11		13 土地 利用	14	15
省庁	タロ仏	以他の似文	<b>肉</b> 建茅木 <b>石</b>	<b>大心工</b> 体	既がパートリクト	既が対きら示	観測		利用研究	始期	~	終期	新規加	充第	節第	52節 第3	第2章	第3章	温暖化	地球 規模 水循環	地球 環境	生態系	風水 害	大規 模火 災	地震・ 津波・ 火山	ギー・鉱物資源	森林 資源	農業資源	生物	情報と	等に気が地理情報	ā象· 海象	地球 科学
文科省	生態系や物質循環変動と気候変動との関係性の解明	係留系・船舶による海洋観測及び衛星データ及び 海底堆積物の解析の解析により、生態系や物質循環変動と気候変動との関係性を明らかにする。	_	海洋研究開発機構	プランクトン/ 陸域植生、水 温、塩分、栄 養塩、二酸化 炭素、溶存酸 素、堆積物	北太平洋/ア ラスカ	0	0	0	H 21	~			C	0				0		0	0										0	
文科省	国際海洋環境情報センター (GODAC)の整備・推進	機構の調査航海や関連研究活動により取得する地球観測データや、海洋再解析データ等をアーカイブし、BISMaLの海洋生物情報と併せて統合的に公開する拠点として、国際海洋環境情報センター(GODAC)の整備を推進する。 生物多様性研究の一環として、OBIS日本ノードとして機能し、それにより関係機関のデータの集約化・共有化を図る。	S-9、「東北マリンサイエンス 拠点形成事業」(海洋生態系の	海洋研究開発機構	_	_		0		H 21	~			C	0						0	0							0	0			
文科省	衛星観測等を利用した森林動態モニタリングの手法の構築	衛星観測等を利用した森林動態モニタリングの手 法の構築に取り組む。	_	海洋研究開発機構	森林の物理 量(バイオマス や葉面積指 数)	アラスカ, モンゴル, 東シベリア	0	0	0	H 21	~											0											
文科省	南極海の海洋酸性化に対す る海洋生態系の応答状況の 観測	南極海において、水温や塩分などの物理・化学データと、動植物プランクトンの分布や生理などに関するデータを採取・解析し、大気中の二酸化炭素の増加による海洋酸性化への影響の解明に貢献する。このため、我が国唯一の定着氷・海氷域における観測プラットフォーム「しらせ」をはじめ、複数の海洋観測船を運用し、海洋生態系が大きく変動する夏季の南極海において、同一観測線上の時系列観測を実施する。	_	国立極地研究所	動植物プラン クトン	南極海	0		0	H 22	~	1 27		C	0				0		0	0							0			0	0
文科省	気候変動適応研究推進プロ グラム	気候変動予測の成果を都道府県・市区町村などで行われる気候変動適応策立案に科学的知見として提供するために必要となる先進的なダウンスケーリング手法、データ同化技術、気候変動適応シミュレーション技術の研究開発を推進する。	気候変動適応研究推進プログ ラム	北海道大学、東北 大学、東京大学、東北 大学、大学、高兴 大学、海洋学、海洋炎 開発機構、防所、 開発機構、防所、 学技術研究所、 業環境技術研究所	研究に用いる	日本各地	0	0	0	H 22	~	l 26			5	0	0		0		0		0					0	0			0	
文科省	グリーン・ネットワーク・オブ・ エクセレンス事業 環境情報 分野	気候変動をはじめとする多様な環境課題への対応に貢献するため、大学等が連携して、地球規模の環境情報の取得から利用に関わる研究開発及び専門人材育成を推進する。	グリーン・ネットワーク・オブ・エ クセレンス事業 環境情報分野	東京大学、名古屋大学	研究に用いる 気象関係 データ等	アジア域等	0	0	0	H 23	~   H	1 27			0	0	0		0	0	0	0	0	0			0	0		0	0	0	
文科省		熱帯降雨観測衛星(TRMM)による降雨の3次元分布、土壌水分等の観測及びデータ提供を継続する。	_	宇宙航空研究開発 機構、米国航空宇 宙局	降水、土壌水 分等	全球(中緯度)	0		0	Н 9	~			C	0	0				0	0		0									0	0
文科省		森林火災の早期検知を行う将来の衛星搭載センサ の研究開発を行う。	_	宇宙航空研究開発機構	森林火災	全球		0		H 21	~				0	0								0									
文科省	地球環境情報統融合プログラ	地球観測データ、気候変動予測データ、社会・経済 データ、地理空間情報等を統合解析することによっ て創出される革新的な成果の国際的・国内的な利 活用を促進するため、地球環境情報の世界的なハ ブ(中核拠点)となるデータ統合・解析システム (DIAS)を整備し、DIASの高度化・拡張と利用促進 を図る。	地球環境情報統融合プログラ ム	東京大学	_	_			0	H 23	~	l 27		C	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			0	0	0	0	0	0	
文科省	が開放の係留ノ1寺による海 注観測	船舶及び係留ブイ等による海洋観測により、気候変動の現状把握のため、海面から海底までの物理・ 化学データや海上気象データ等を取得する。	IPCC AR5, GEOSS, GOOS等	海洋研究開発機構	炭砂・ が大シ、温存他関質を では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	太平洋・インド洋・南大洋	0	0	0	H 16	~			C	5	0		0	0		0								0			0	
文科省	平洋中高緯度のブイネット	自動昇降型漂流ブイや北太平洋中高緯度のブイネットワークにより、海洋上層の物理現象や化学成分を広域的・リアルタイム・継続的に測定。	IPCC AR5, GEOSS, GOOS等	海洋研究開発機構	溶存化学物 質、炭酸系物 質	太平洋・インド洋・南大洋	0	0	0	H 16	~				5	0		0	0		0								0			0	
文科省	海大陸レーダーネットワーク に関する基盤整備等	海大陸レーダーネットワークに関する基盤整備等を 促進し、「季節内変動」(周期~数10日)の発生・伝 播・変質のメカニズムを解明するための研究開発を 実施。		海洋研究開発機構	圧·雲量·短 波放射·風向	インド洋・西部 太平洋・パラ オ・インドネシ ア・インドシナ	0	0	0	H 16	~			C	5	0		0	0	0	0		0									0	

								機器開 を利用し		計	画期間		新規·拡	充 平			針の該	当箇所						分野別	の推進	戦略で	該当する					_	
担当省庁	項目名	取組の概要	関連事業名	実施主体	観測対象	観測地点	観測	機器開発	データ 利用 研究	始期	~	終期	新規 拡	五充 第	第1		第2章	第3章	1 温暖 化	地球 規模 水循環	地球環境	生態系	風水 害	5 大規 模火 災	カー 地震・ 津波・ 火山	8 エネル ギー・ 鉱物 資源	森林	農業資源	海洋生物資源		13 土地 利等にる 関サ理 情報	5. 5. 5. 5. 5. 5. 5. 5. 5. 5. 5. 5. 5. 5	
文科省	北極における気候変動に関す る研究	北極海の気候変動に関する研究のため、海洋地球研究船「みらい」や氷海観測用プロファイラーPOPS(Polar Ocean Profiling System)などによる海洋・海氷・気象総合観測を実施。	_	海洋研究開発機構	水温、塩分、 流向流速、栄養 存酸素、栄養 塩、気温、気 圧、風向風速 他	北極海	0	0	0	H 16	~			C	) C	)		0	0		0												
文科省		インドネシア多嶼海を中心とした水蒸気量、降水量、同位体組成等観測による、対流活動と水循環の時空間変動についての知見の蓄積	JST-JICA 地球規模課題対応 国際科学技術協力(SATREPS)	海洋研究開発機構		海大陸・パラ オ、インドシ ナ、フィリピン	0	0	0	H 21	~							0		0													
文科省		温室効果ガス観測技術衛星「いぶき」(GOSAT)に よる全球の温室効果ガスの観測及びデータ提供を 継続する。 温室効果ガス観測技術衛星「いぶき」(GOSAT)に		宇宙航空研究開発機構、国立環境研究所 宇宙航空研究開発	及びメタン	全球	0		0	H 20	~			(	) C			0	0		0			0			0						0
環境省	0 13/C](dass)(1)	よる全球の温室効果ガスの観測及びデータ提供を 継続する。	温室効果ガス観測技術衛星「い ぶき」(GOSAT)	機構、国立環境研究所	二酸化炭素 及びメタン	全球	0		0	H 18	~				C	)	0	0	0														
文科省		陸域観測技術衛星「だいち」(ALOS)アーカイブデータによる植生、雪氷等のデータ提供を継続する。	_	宇宙航空研究開発機構	植生、雪氷等	全球	0		0	H 17	~			C	) c	0			0			0		0	0		0	0		0	0		
文科省	陸域観測技術衛星「だいち2 号」(ALOS-2)	植生、雪氷等の観測を行う陸域観測技術衛星2号 (ALOS-2)を開発する。	_	宇宙航空研究開発機構	植生、雪氷等	全球		0		H 20	~				) c	0			0			0		0	0		0	0		0	0		
文科省	水循環変動観測衛星「しずく」 (GCOM-W)	水循環変動観測衛星「しずく」(GCOM-W)による降水、水蒸気、土壌水分等の観測及びデータ提供を継続する。		宇宙航空研究開発機構	降水、土壌水 分、水蒸気等	全球	0		0	Н 17	~			C	) C	)		0	0	0			0									0	0
文科省	気候変動観測衛星(GCOM-C)	雲・エアロゾル、植生分布の全球観測を行う気候変動観測衛星(GCOM-C)の開発を行う。	_	宇宙航空研究開発機構	雲・エアロゾ ル、植生分布 等	全球		0		Н 17	~					0		0	0		0	0		0		0	0	0	0		0	0	0
農水省	草地動態に関する研究ネットワーク・日本長期生態学研究ネットワーク(JaLTER)		草地動態に関する研究ネット ワーク・ 日本長期生態学研究ネットワー ク(JaLTER)	(独)農業を育成の 農業技術を草地研研の 新産産・食研研の 新産産・単研での 新産産・単研での 新産産・単研での でので、 でいるで、 でいるで	他エルと	国内草地	0		0	S 47	~ }	1 29		C	)							0						0					
農水省		独自に開発した自立型気象観測パッケージ MINCERを用いて、アジアを中心とするコメ生産国の 実験水田において、イネの高温障害に直接関わる 穂周辺の気温・湿度の測定を継続し、イネの生育、 収量との関連を解析する。	運営費交付金研究(イネ高温障害と水田微気象の実態解明のための多国間観測ネットワークMINCERnetの新展開)		相対湿度	インド、スリラ ンカ、ミャン マー、中国、 フィリピン、台 湾、アメリカ、 ベナン、日本	0		0	H 23	~	H 27						0	0			0						0					
農水省	地球規模環境変動に対する 作物応答メカニズムの解明及 び影響予測	水田における開放系大気CO2増加(FACE) 実験施設を利用して、イネの高CO2処理によるイネ収量、品質応答およびその品種間差異を解析した。	地球規模環境変動に対する作物応答メカニズムの解明及び 影響予測	(独)農業環境技術 研究所		茨城県つくば みらい市	0		0	H 25	~	1 29	(	o (	) C	)		0	0	0	0							0					
農水省	農業生態系の炭素循環と温	陸域プラットフォーム(タワー)により、農耕地の炭素収支、メタンおよび一酸化二窒素のフラックス、微気象、植物量等の観測を継続し、その年々変動を解析する。また、生肥施用の有無が国内の草地・飼料畑の炭素収支および温室効果ガス収支に及ぼすを解析する。モンスーンアジアの農業生態系の炭素収支データの集積と統合を進める。	域生態系の炭素循環変動把握の精緻化に関する研究」(H24 ~28)、APN「CarboAsial」向けて:タワー観測地域ネットワークの活性化によるアジア熱帯・亜熱帯および農地の生態系フラックスデータの集積と統合」(H25 ~28)	呂崎大学、北機構 東京では、大学、中国では、大学、中国では、大学、中国では、大学、大学、大学、大学、大学、大学、大学、大学、大学、大学、大学、大学、大学、	気象要素, CO2, CH4, N2Oのフラッ クス、蒸発散	つくば市、中 ではでは、中 ではでいた。中 では、中 では、中 で が原、中 ラディ、 ・ で ランュ、 ショ	0		0	Н 11	~ 1	1 28			C	)	0	0	0			0											
林野庁	温暖化適応策導出のための 長期森林動態データを活用し た東アジア森林森林生態系観 測ネットワークの構築	東アジアの主要な森林生態系の炭素収支を比較評価するため、各地で森林生態系炭素収支観測を実施するとともにネットワーク化を進める。	環境省地球環境保全試験研究 費	森林総合研究所	里(ハイオマ	中央シベリ ア、中国、イ ンドネシア、タ イ、マレイシア	0		0	H 21	~	H 25		C	) C	)			0			0					0						

								機器開発を利用し		計	画期間		新規·拉	充平		年度実施	方針の	該当箇所	f					分野	野別の推	進戦略で	該当する	るもの					
担当省庁	項目名	取組の概要	関連事業名	実施主体	観測対象	観測地点	観測	機器開発	データ利用研究	始期	~	終期	新規 拉	太充 第		第1章 第2節 第	3節 第2	2章 第3章	章 温暖化	地球 規模 水循環	地:	球 生態境 系		大規模學	見 地震 は 津波 火山	+	森林	農業資源	生物	空間情報基盤	13 土地 利用 等する 関 地 乗 地 乗 も も も も も も も も も も も も も も も も	14 気象・ 海象	
林野庁	アマゾンの森林における炭素 動態の広域評価	ブラジルアマゾンを対象に森林インベントリとリモートセンシングによる広域な森林の炭素動態の評価 技術を開発する。	(独)科学技術振興機構·(独)国際協力機構: 地球規模課題対応国際科学技術協力 (SATREPS)	新林総合研究所、 東京大学生産技術 研究所、リモートセ ンシング技術セン ター	森林の炭素 蓄積量(バイ オマス)	ブラジル・アマ ゾン	0		0	H 21	~	25			0	0			0			0					0				0		
林野庁	地球温暖化が日本を含む東 アジアの自然植生に及ぼす影 響の定量評価	ブナ分布限界環境にある茨城県筑波山のブナ天然林において1haプロットで樹木のモニタリングを行っている。2007・2008年に第1回目の調査は実施され、環境省から公表されている。2013年に第2回目の調査を予定している。本プロットは、環境省モニタリングサイト1000に登録している。	環境省モニタリングサイト100 0	森林総合研究所	天然林の成 長と更新	筑波山	0		0	H 22	~	26				0			0			0					0						
林野庁	REDD推進体制整備に関す る研究	カンボジアと半島マレーシアにおける森林の地上調査とリモートセンシングをもとに、森林炭素蓄積量変化のモニタリング手法の選択手法を開発し、開発途上国にREDDプラス実施体制の整備を進める。	REDD推進体制緊急整備事業	森林総合研究所	森林炭素蓄 積量	マレーシア、 カンボジア、 パラグアイ	0		0	H 22	~ H	1 26			0	0			0			0					0				0		
林野庁	モニタリングサイト1000	天然林の動態観測、データの統合と標準化、公開 をおこなった。	環境省モニタリングサイト100 0	森林総合研究所	天然林の成 長と更新	小川(茨城県)、カヌマ、 (岩手県)、カママ (宮崎県)、一ノ又(高知県)、 県)、筑波山など	0		0	H 19	~	25				0			0			0					0						
林野庁	森林における熱、水、炭素フ	陸域プラットフォーム(タワー)により、北海道から九	環境省地球環境保全試験研究 費 農林水産技術会議委託プロ	森林総合研究所 山梨県環境科学研	国内の森林 生態系におけ る微気象観測	ノフツン人없	0		0	H 24	~	28			0	0			0			0											
<b>个个主</b> 了了	ラックスの長期モニタリング	州の森林の炭素収支、熱収支、微気象、土壌呼吸 等の継続観測を実施する。	展州小屋技術会議委託プロジェクト: 気候変動に対応した循環型食料生産等の確立のための技術開発		による熱、 水、炭素収支 など	が 測サイト5地 点	0		0	H 22	~ H	26			0	0			0			0											
林野庁	森林及び林業分野における	森林の炭素・窒素循環モデルや森林資源の高精度な広域評価手法の開発などの開発を通して、森林・林学・木材生産による炭素量変化の将来予測とその地理的分布を表す新たな統合モデルを開発し、このモデルよる将来予測から温暖化緩和をもたらす森林・林業・木材利用の最適な施策を提案する手法を開発する。	農林水産技術会議委託プロジェクト:気候変動に対応した循環型食料生産等の確立のための技術開発	森林総合研究所	森林生態系 の炭素蓄積 量(バイオマ ス、土壌炭素 等)	日本全域	0		0	H 22	~	26			0	0			0			0					0				0		
経産省	我が国の地下水及び水文環境の把握のための地下水資源のポテンシャル評価	地下水及び水文環境の把握による情報の整備を行う。	産総研運営費交付金の一部 「水文環境図プロジェクト」	産業技術総合研究 所	地下水	石狩平野、熊 本平野、東北 地方	0		0	H 22	~	26			0					0													0
経産省	ハイパースペクトルセンサ等 の利用技術の開発	資源探査等のための衛星搭載用ハイパースペクトルセンサによるデータの利用技術の開発にて、 REDD+の測定/報告/検証(MRV)に貢献するための 利用技術、及び農作物の品質・収量推定等の技術 開発を行う。		経済産業省	陸域	全球			1	H 18	~	26			0																		
経産省	海底堆積物の調査	海底堆積物の総合的な調査により、 海洋中における物質循環と気候変動との関連性の解明を行う。	産総研運営費交付金の一部 「海域地質図プロジェクト」、 産総研運営費交付金の一部 「沿岸域プロジェクト」	産業技術総合研究 所	海洋堆積物	日本周辺海域	0			H 22	~ H	1 26			0	0																	0
経産省	アジア地域二酸化炭素フラッ	アジア地域を中心とした森林生態系の二酸化炭素フラックスおよび関連環境指標の連続観測を継続し、AsiaFluxおよびJaLTRデータベース等を通して他機関と共有するとともに、長期観測を強化する計測技術や情報通信化など関連技術の開発を行う。	研究」、 環境省地球環境保全試験研究	産業技術総合研究 所(森林総合研究 所、農業環境技術 研究所、国立環境	濃度・フラック	岐阜県高山 市、タイ王国 サケラート、メ クロン	0	0	0	H 24	~	28			0			0	0			0					0					0	
国交省	高頻度・高分解能の観測が可能なXパンドMPレーダ	XRAIN(国土交通省XパンドMPレーダネットワーク) による高頻度・高分解能なレーダ雨量観測を実施		国土交通省水管 理·国土保全局	雨量、風向、風速等	札城島。辺潟川部山州周辺 美国東東東東山岡畿島東東山岡畿島部近広部、山州辺地の北京部、北京市、大田、北京市、大田、大田、大田、大田、大田、大田、大田、大田、大田、大田、大田、大田、大田、	0			H 20	~			0	0								O	,									
地理院	地球地図整備	我が国主導の下で、各国の国家地図作成機関の協 カにより全陸域の基盤的地理空間情報の整備・公 開を進める。	_	国土地理院/国土 交通省/地球地図 国際運営委員会系 務局(ISCGM)/各 国の国家地図作成 機関	河川·湖沼、 人口集中域、 標高、植生	主座域	0		ı	H 12	~				0		(	)												0			

								機器開を利用し		計	画期間	1	新規·拡充	充 平成2			の該当	箇所						分野別の	推進戦	比略で該	当する	もの					
担当省庁	項目名	取組の概要	関連事業名	実施主体	観測対象	観測地点	観測	機器開発	データ 利用 研究	始期	~ #	冬期	新規 拡き	充 第1 節	第1章	第3節	第2章 第	至3章 温	暖塊規化	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	3	4 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	5 l水 害	6 7 大規 地類 莫火 津 災 火	アニュー・ディー・ディー・ディー・ディー・ディー・ディー・ディー・ディー・ディー・ディ	8 ネル ご一・ 拡物 資源	森林資源	農業	生物	空間情報基盤	13 土地 利用にる 野地 情報	14 気象・ 海象	
気象庁	気象の定常観測	台風・集中豪雨等の監視・予測のため、静止気象衛星、レーダー、アメダス、ラジオゾンデ、ウインドブロファイラー等による気象の定常観測を行い国内外に提供する。	観測業務、高層気象観測業務、 静止気象衛星業務	気象庁	照、阵小、X	国内全域(各地における直接または遠隔)(静止気象衛星観測は宇宙からの遠隔)	0		ŀ	M 5	~			0				0	0				0									0	
気象庁	静止地球環境観測衛星の整 備等	静止地球環境観測衛星(次期ひまわり)の製作	静止地球環境観測衛星の整備	気象庁	雲、水蒸気等	宇宙からの遠 隔	0		1	H 21	~ н	28		0	0			0	) (		0	(	Э									0	
		温室効果ガス等の観測	温室効果ガス等の観測	_	温室効果ガス等	全国3箇所及 び航空機	0			S 62	~			0	0			(	)		0											0	
		オゾン観測	オゾン観測	_	オゾン	全国4箇所及 び南極昭和 基地	0		:	S 32	~			0	0			,	)		0											0	
気象庁		世界気象機関(WMO)温室効果ガス世界資料センター(WDCGG)の運営	世界気象機関(WMO)温室効果 ガス世界資料センター(WDCGG) の運営	_	温室効果ガス	- -			0	H 2	~			0	0			,	5													0	
		世界気象機関(WMO)品質保証科学センター (QA/SAC)の運営	世界気象機関(WMO)品質保証 科学センター(QA/SAC)の運営	_	温室効果ガス 等	_			0	H 7	~			0	0				)													0	
		世界気象機関(WMO)全球大気監視較正センター (WCC)の運営	世界気象機関(WMO)全球大気 監視較正センター(WCC)の運営		温室効果ガス 等	_			0	H 14	~			0	0				o													0	
		海洋気象観測船による観測	海洋気象観測船による観測	_	温室効果ガス等	北西太平洋	0			S 56	~			0	0				)		0												
気象庁		温室効果ガスの大気増加・海洋吸収の変動評価及びその人為的・気候的要因の診断解析手法を開発し、地球温暖化の監視技術の高度化を図る。		気象庁気象研究所	温室効果気 体、炭酸系、 溶存酸素	北太平洋西部	0		0	H 21	~ Н	25		0	0				0			0											
環境省	高山帯植生における温暖化影響モニタリング		国立環境研究所・環境研究の 基盤整備(地球環境の戦略的 モニタリング)	国立環境研究所	高山帯植生	本州および北 海道地域の 高山帯	0	0	1	H 23	~ н	27		0				,	)			0											
環境省	地球規模生物多様性モニタリング推進事業	日本全国の様々なタイプの生態系を代表する地点約1000箇所で、総合的なモニタリングを継続する。また、平成21年度に研究者が中心となり設立されたアジア太平洋生物多様性情報の共有・統合と関係である。さらに、東アジア及び東南アジア各国政府と関係機関との協力により東・東南アジア生物多様性情報イニシアティブ(ESABII)を推進し、政策決定に必要な生物多様性情報を分かりやすく整備・提供すると共に、分類学能力構築のための研修を行う。	生物多様性情報システム(J-	環境省	生態系	アジア太平洋地域	0			H 19	~			0				,	D			0											
総務省	亜熱帯環境計測ネットワーク データシステム	リモートセンサ(ウインドプロファイラ、降雨レーダ、 遠距離海洋レーダ)による亜熱帯地方の気象・海象 観測とデータ配信を実施。	リージョナル電波センシング	情報通信研究機構	風·降水·海 洋波浪	沖縄県内	0		1	H 13	~			0					(			(	Э .									0	
総務省	大気観測の高機能化	ウインドプロファイラによる大気観測を高機能化する。		情報通信研究機 構、京都大学、気象 庁	風の鉛直分 布	東京都内	0	0		H 23	~ н	25			0						0											0	
総務省		遠距離海洋レーダによる海表面流の観測データの 高度な処理に関する研究。	リージョナル電波センシング、対 馬暖流の流路観測と流路分岐 メカニズム	情報通信研究機 構、名古屋大学、九 州大学、琉球大学	海洋波浪、海流	東シナ海、日 本海	0			H 21	~			0																		0	
総務省	温室効果ガスを高精度に観測 する能動型光センサの研究開 発	大気中のCO2濃度を高精度に計測する能動的光センサを研究開発。	高周波電磁波センシング技術 の研究開発	情報通信研究機構	CO2濃度	全球(目標)		0	1	H 18	~				0			(	)														
文科省		静止衛星への搭載を目指した、アジア地域を含む 広域の大気汚染を観測する広域大気汚染センサの 研究を実施する。	_	宇宙航空研究開発機構	大気汚染物 質	アジア地域等		0		H 17	~				0						0												
文科省		衛星・地上観測データ解析と生態系モデルによる植生動態の解明や、炭素収支の変動の要因を解析 し、気候変化が生態系に与える影響予測の実施。	_	海洋研究開発機構	温室効果気 体、陸域植 生、海洋水色	全球	0	0	0	H 16	~				0				0		0	0											
文科省	陸域における生物多様性や 生態系機能/サービスのリ モートセンシング・データによ る解明	熱帯林において、森林伐採やその後の開発の状況を衛星リモートセンシング・データを用いて解明する。国内では航空機による近接リモートセンシングを行い生態系機能の評価をする。そのほか、森林の葉面積指数やバイオマスといった、生態系機能/サービスと密接に関連する植生物理量を衛星リモートセンシング・データから推定する方法を構築する。	環境省地球環境研究総合推進 費 S-9およびF-1101	海洋研究開発機構	森林の物理 量(パイオマス や葉面積指 数)	帯林), 北茨	0	0	0	H 23	~ Н	27			0							0											

								機器開を利用し		計	画期間		新規·抽	広充 平	成25年	F度実施	方針の	該当箇所	f					分野別	川の推進	戦略で記	該当する	らもの					
担当省庁	項目名	取組の概要	関連事業名	実施主体	観測対象	観測地点	観測	機器開発	データ 利用 研究	始期	~	終期	新規 拮	広充 第		2節 第	3節 第2	₿章 第3፤	1 温暖 化	也球 規模 水循環	地球環境	生態系	5 風水 害	6 大規 模火 災	7 地震・ 津波・ 火山	8 エネル ギー・ 鉱物 資源	森林資源	農業資源	海洋生物資源	空間情報と関する。	13 1 二地 川用 気に する 地理 報	14 〔象· ± 再象 和	
文科省		衛星観測を検証するための地上MAX-DOAS観測網による長期観測を実施。静止衛星や、その前段階として位置づけられる国際宇宙ステーションからの大気環境観測に関する科学研究計画を推進	_	海洋研究開発機構		沖縄辺戸岬、 横須賀、韓国 光州、中国合 肥、ロシアズ ベニゴロド	0		0	H 19	~				(	0					0										(	0	
文科省	東アジア広域汚染地域等各 地における観測、影響把握	東アジア広域汚染地域等各地における観測と、数値モデルを利用した大気汚染物質の放出量増加が 気候・環境に与える影響の把握	環境省地球環境研究総合推進 費 S-7	海洋研究開発機構	バロ ル当年	ロシア、中国 中東部、日本 九州西部、沖 縄	0		0	H 16	~					0					0												
文科省	インド洋の実海域データのリ アルタイム取得	インド洋に海洋・気象観測ブイネットワークを構築 し、実海域データのリアルタイム取得を行う。	_	海洋研究開発機構	温湿度·短波放射·風向風速·水温·塩分	東部インド洋	0	0	0	H 21	~				(	0				0	0										(	0	
文科省	海面係留ブイネットワーク	西太平洋の熱帯域と東部熱帯インド洋に設置する 海面係留ブイネットワークにより、海洋上層の水温 塩分等を広域的・リアルタイム・継続的に測定する。	_		水温、塩分、 二酸化炭素 濃度、流速上温 象、度、流気压 湿量、短波 射	太平洋、インド洋	0	0	0	H 16	~				(	0		0		0	0										(	0	
文科省	黒潮域及びその続流域にお ける観測	黒潮域及びその続流域における、観測機器係留、 観測船等を活用した水温、塩分、流向流速、海面熱 交換量等の観測	IPCC AR5, GEOSS, GOOS等	海洋研究開発機構	水温、塩分、 流向流速、海 面熱交換量 等	北太平洋	0	0	0	H 16	~				(	0			0		0								0		(	0	
文科省	観測船による約10年の間隔で くり返す高精度観測の実施	観測船による約10年の間隔でくり返す表面から海底直上までの物理・化学多項目の高精度観測の実施	IPCC AR5, GEOSS, GOOS等		温暖化関連 溶存物質、そ の他溶で、水 学物質、水 温、塩、海上気 象など	太平洋、インド洋、南大洋	0	0	0	H 16	~					0			0		0	0							0				
文科省	別未以体守の既然	地球規模の気候・環境変動の現況評価と将来予測に貢献するため、人為活動の直接的な影響が少ない南極域において、温室効果気体、エアロゾル、雲等の大気成分の動態を規則的にモニタリングするとともに、人工衛星や地上リモートセンシング等により、放射収支に関わる雲やエアロゾル等の動態を把握する。	_	国立極地研究所	温室効果気 体濃度・エア ロゾル等	昭和基地	0		0	S 31	~				(	0			0		0										(	0	0
文科省	東南極における氷床コアの掘 削及び時系列解析	東南極とその周辺海域における氷床や地形、堆積物などに蓄積された古環境の変動記録を採取・解析し、「南極寒冷圏」が地球環境変動に果たす機能の解明に貢献する。このため、東南極の内陸と沿岸において、地形地質調査や氷床コアと堆積物の採取・解析などを実施し、過去72万年間にわたり復元した気温と大気組成を、地球各地から報告されている古環境の変動記録と比較する。	_	国立極地研究所	氷河地形	東南極	0		0	H 22	~	H 27			(	0			0														0
文科省	南極域の中高層大気の観測	温暖化する対流圏から寒冷化する中層・超高層大気までの鉛直断面を観測し、南極域中層・超高層大気の種々の擾乱の応答を精査することにより、その長期変動の解明に貢献する。このため、世界で初めて南極域(昭和基地)に大型大気レーダーシステム(PANSY)を整備・運用し、南極域直上の対流圏から電離圏までの3次元風速やブラズマパラメータなどの高精度観測を実施する。	_	国立極地研究所	南極域中高層大気	昭和基地	0		0	H 22	~	H 27			(	0			0		0										(	0	0
文科省	測(現心極)	観測研究者と気候モデル研究者の共同研究体制を整備し、気候モデルの精緻化と北極圏システムモデルの構築を図る。また、これらのモデルを基盤とした地域モデルの活用により、北極域の温暖化に起因する地域的な極端現象の発生や海洋生態系の変化を統計的に予測できるレベルを目指し、北極圏の気候変動が日本の気候や社会に及ぼす影響を検証する。	_	国立極地研究所 (代表機関)·海洋 研究開発機構(参 画機関)	分、凍土、氷	北極域海洋・ 海氷・陸域・ 大気・雪氷域	0		0	H 23	~	H 27			(	0		0	0		0	0	0						0		(	0	0

							観測、	機器開を利用し	発、た研	計	画期間		新規·抽	広充 平	成25年	年度実施	も方針の	の該当篋	i所						分野別	の推進	戦略で記	亥当する	もの					
+0 14							ĺ	241771	772191					F	第	第1章	$\exists$		-	1 2	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11		13 土地	14	15
担当省庁	項目名	取組の概要	関連事業名	実施主体	観測対象	観測地点	観測		データ 利用 研究	始期	~	終期	新規力	広充 第	第1 節	第2節 第	3節	52章 第	3章 温	暖規化水統	球 模 程環	世球	主態 系	虱水 害	大規 埃 災	也震· 津波· 火山	エネル ギー・ 鉱物 資源	森林資源	農業資源	海洋 生物 資源	空間 情報 基盤	利用 等に 関する 地理 情報	気象・ 海象	地球科学
農水省	気候変動に対応した循環型食料生産等の確立のための技術開発	農林水産分野における温室効果ガスの発生・吸収 メカニズムの解明、温室効果ガスの排出削減技術、 森林再生技術、農地土壌等の吸収機能向上技術を 開発します。	気候変動に対応した循環型食料生産等の確立のためのプロジェクト	(独)農業環境技術 研究所、(独)農業・ 食品産業技術総合 研究機構、(独)森 林総合研究所、 (独)水産総合研究 センター	温室効果ガス等	農地、森林、近海域	0		0	H 22	~ Н	29		(	0	0												0	0	0				
環境省	センサーネットワーク化と自動解析化による陸域生態系の 炭素循環変動把握の精緻化 に関する研究	陸域炭素循環観測拠点(炭素移動量観測塔を有する地点等)での機関間・分野間連携による炭素循環変動のモニタリング体制の構築	環境省地球環境保全等試験研 究費	森林総合研究所、 農業環境技術研究 所、産業技術総合 研究所、国立環境 研究所、山梨県環 境研究所	森林炭素収 支	北海道、山梨県など	0	0		H 24	~ Н	28	0	(	0	0			(	0			0											
林野庁	凍土深の変動が森林炭素蓄 積量と林床構造・機能に及ぼ す影響の評価	凍土地帯の森林生態系における、現存量蓄積と蘚 苔地衣型林床の機能を解明する。	文科省科研費	森林総合研究所	北方林生態 系	アラスカ、カナ ダ、シベリア	0			H 22	~ Н	25							(	0			0					0						
経産省	南鳥島における微量温室効 果ガス等の長期観測	附馬島にあいて、各機関と連携して、温室効果ガスの挙動に影響する関連ガス等を監視する総合的な	未ル人守のモーダリング」、	産業技術総合研究 所(気象庁、気象庁 気象研究所、国立 環境研究所と共同)	二酸化炭素 安定同位体 比	南鳥島	0	0	0	H 23	~ H	25				0			(	0														
経産省	エアロゾルの機構解明	父島におけるエアロゾル粒径分布、炭素粒子および西日本におけるPM2.5などの連続測定により、アジア地域を中心としたエアロゾルの発生・輸送機構の解明を行う。	産総研運営費交付金の一部	産業技術総合研究 所	PM2.5・黒色 炭素粒子(西 日本)、黒色 炭素粒子・光 散乱係数(父 島)、	父島 福岡市・福江 島(PM2.5)	0			H 20	~ Н	25							(	0		0												
気象庁	南鳥島における微量温室効 果ガス等のモニタリング		南鳥島における微量温室効果 ガス等のモニタリング	気象庁気象研究 所、国立環境研究 所、産業技術総合 研究所	温室効果ガス等	南鳥島	0			H 23	~ Н	25				0				0		0												
気象庁環境省	民間航空機を使った温室効果 ガスのグローバル観測	民間航空機に二酸化炭素連続測定装置と自動大 気サンブリング装置を搭載し、全球規模で温室効果 ガスの高度分布を含む立体(3D)分布を観測する。	地球温暖化研究プログラム CONTRAILプロジェクト	気象庁気象研究 所、国立環境研究 所	大気温室効果ガス	全球	0			H 18	~					0			(	0		0												
環境省	チャーター機を使った温室効 果ガスの航空機モニタリング	シベリア3カ所の上空において、定期的にチャー ター機を使ってサンプリング法によって温室効果ガスの鉛直分布を観測する。	地球環境研究センターモニタリ ング事業	国立環境研究所	大気温室効 果ガス	シベリア	0			H 5	~					0			(	)														
環境省		温室効果ガス等を測定するために国内を含むアジア太平洋地域に地上観測ネットワークの整備を行い、広域モニタリングを遂行する		国立環境研究所	大気温室効果ガス	沖縄県波照間、北海道落石岬、インド、中国、マレーシア、米国(ハワイ)、	0			H 5	~					0			(	0														
環境省		シベリアの9カ所において既存タワーを利用して二酸化炭素とメタンの濃度を連続観測する。	地球温暖化研究プログラム JRSTATIONプロジェクト	国立環境研究所	大気温室効 果ガス	シベリア9カ所	0			H 12	~					0			(	0														
環境省	温室効果ガスの海上モニタリング	温室効果ガス等を測定するために国内を含むアジア太平洋地域に海洋上観測ネットワークの整備を行い、広域モニタリングを遂行する	地球環境研究センターモニタリング事業 地球温暖化研究プログラム	国立環境研究所	大気温室効果ガス	北太平洋、西 太平洋ならび に東南アジア 地域	0			Н 4	~					0			(	0														
環境省	民間船舶を使った海洋表層の 二酸化炭素分圧モニタリング	海洋の二酸化炭素吸収を明らかにするための、海洋表層の二酸化炭素観測(観測船、民間を含む観測協力船、自動ブイ等による)、海洋断面の二酸化炭素分布観測及び海洋時系列観測点における地球化学的観測を包括する観測体制を整備	地球環境研究センターモニタリ ング事業	国立環境研究所	海洋表層二 酸化炭素分 圧	太平洋	0			Н 7	~					0			(	0														
環境省	辺戸岬スーパーサイトの共同 運用	国内の研究機関と連携し大気質・エアロゾルについて長期連続観測を行う。気候変動に関連しエアロゾルと雲の相互作用などについての観測を行う予定。関連する研究者にホームページでの情報整備を通じて観測データの利用を促進する。アジア地域のABC観測地点と協議しデータを継続して整備する。	国環研長期モニタリング環境省推進費	国立環境研究所	対流圏大気質(主にエアロゾル)	沖縄県辺戸岬	0		0	H 17	~					0						0												
総務省	SARによる地表面観測技術の 開発	SARによる地表面観測技術の開発。	リージョナル電波センシング	情報通信研究機構	地表面	国内	0			H 15						(	0					0				0		0				0	0	

								機器開を利用し		計	画期間	3	新規·拡	充 平原			針の該	当箇所		•		, ,	- 1	分野別の	の推進				44 1	40	40		45
担当省庁	項目名	取組の概要	関連事業名	実施主体	観測対象	観測地点	観測	機器開発	データ 利用 研究	始期	~ 1	冬期	新規拡	充 第	第1章		第2章	第3章	1 温暖 化	也球 規模 水循環	地球環境	生態	5 風水 害	大規 地	也震・	8 エネル ギー・ 鉱資源	森林	農業	海洋 生物 資源	空間情報基盤	土地 利用 等に 気	14 記象・ は 海象 オ	地球
文科省	基盤的な局有度地震火山観	基盤的地震・火山観測網により得られたデータを用いて、地震・火山噴火の発生メカニズム解明と予測技術に関する研究開発を実施する。	観測・予測研究領域	防災科学技術研究 所	地震、地殼変動	全国(地震)、 国内火山(地 震·地殻変 動)	0	0	0	H 23	~ Н	27	(			0									0								
文科省	日本海溝海底地震津波観測 網の整備	高精度な津波即時予測システムの開発、地震像の解明等を行うための、ケーブル式観測網(地震計・水圧計)を日本海溝沿いに整備し、地震・津波をモニタリングする。		防災科学技術研究 所		日本海溝・千 島海溝沿い の太平洋沖 海底	0	0		H 23	~ н	27				0									0								
文科省	ム」(地球観測システム研究開発	東南海地震および南海地震の想定震源域における 高精度な地震・津波のリアルタイム観測システムを 構築・運用する。	「地震・津波観測監視システム」 (地球観測システム研究開発費補 助金)	海洋研究開発機構	地震、津波	熊野灘沖、潮 岬沖	0	0		H 22	~ Н	31				0									0								
文科省	「東北地方太平洋沖で発生す る地震・津波の調査観測」	東北地方太平洋沖地震震源域および、隣接の千島 海溝から房総沖にかけての周辺海域において、高 分解能反射法探査システムや海底地震計による海 域地球物理観測や曳航体・遠隔操作型無人探査機 (ROV)等により過去の地震像の実態を把握する。	_	海洋研究開発機構	海底下地殼 構造、堆積 物、地質、地 球物理データ (温度、圧力 など)	千島海溝、日本海溝、房総沖	0	0		H 23	~ Н	25				0									0								
文科省	東北マリンサイエンス拠点形 成事業(海洋生態系の調査研 究)	2011年3月11日に発生した東日本大震災による東北沖の海洋生態系へのインパクトと漁業への影響について、海洋生態系の調査・観測を元に得られたデータを解析し、被災地のニーズに合わせた効果的、効率的な漁業の復興と持続的漁業の在り方を示す。	東北マリンサイエンス拠点形成 事業(文部科学省)	海洋研究開発機構	地形、海洋に 生息する生 物・微生物、 生態系及び 生息環境の 素データ	東北三陸沖	0	0	0	H 23	~ Н	32				0						0							0				
経産省	火山噴火予知等の調査研究	火山噴火予知及び火山防災のための火山情報を 提供するため、火山の噴火活動履歴及び噴火メカ ニズムについて調査・研究を行う。	産総研運営費交付金の一部 「火山ブロジェクト」、 文科省、平成20年7月 建議「地震および火山噴火予知のため の観測研究計画」	産業技術総合研究 所	火山噴出物、噴煙、熱·電磁気学的変動、地殼変動	三宅島、口永 良部島、伊豆 大島、浅間山	0	0	0	H 22	~ н	26				0									0								0
経産省	地震災害予測手法の開発	活断層について活動履歴の調査を行い、活断層の活動性評価を実施するとともに、地震災害の予測手法を開発する。また、海溝型地震と巨大津波の予測手法を高度化するための調査、研究を行う。	文科省受託研究「活断層の補完調査」、 文科省受託研究「沿岸海域に な行名活動を調査」、 産総研運営費交付金の一部 「南海・東南海地震の前兆現象 検出精度向上のためのの一部 「建総研運営費交付金の一部 「地震・津波等の次世代リスク に で で で で で で で に に に に に に に に に に に に に	産業技術総合研究 所	活断層、津波 雅積物、地 形、地殼底、 力、地位 下水位	日本全国	0		0	H 22	~ Н	26				0									0								0
地理院	基本測地基準点測量	国内全陸域の基準点等においてGNSS測量、水準 測量及び重力測量、験潮場において潮位観測など を繰り返し行う。		_	水平位置、高 さ、重力、潮 位等	日本国内	0			H 16	~					0									0					0			
地理院	地殼変動観測	国内の地殻活動の活発な地域等において、GNSS 連続観測、水準測量等を高頻度で繰り返し行う。	_	_	水平位置、高 さ等	日本国内	0			S 42	~					0									0					0			
地理院	高精度地盤変動測量	国内全陸域において、地球観測衛星の観測データ を用いた干渉SAR技術による高精度地盤変動測量 を実施する。	_	_	地球観測衛 星と地表間の 距離の変化 量	日本国内	0			H 16	~					0									0					0			
地理院	火山変動測量	全国の活動的な火山において、GNSS連続観測、水 準測量、重力測量、地磁気測量等を実施する。	_	_	水平位置、高 さ、重力、地 磁気等	日本国内	0			H 1	~					0									0					0			
地理院	航空機搭載型合成開ロレー ダによる地形測量	航空機SARにより、活動的な火山における火口部 周辺の地形観測や湛水域観測を行う。		_	火口部の地 形、水害/土 砂災害発生 箇所	霧島山(新燃岳)など	0			H 22	~					0									0					0			
地理院	電子基準点測量	全国に設置された電子基準点によりGNSS連続観測を行う。 また、GNSSの精密軌道決定のため軌道追跡局の データを収集し、IGSへ提供する。		_	水平位置、高さ	日本国内	0			H 7	~					0									0					0			
地理院	VLBI測量	国際VLBI事業(IVS)参加機関としてVLBI観測を実施し、観測データの相関処理・解析を実施する。また、より詳細な地球規模の諸現象を解明するため、次世代のVLBI観測システムに対応したVLBI2010観測施設を新たに整備する。	_	_	水平位置、高 さ及び地球の 自転や姿勢 に関する情報 等	日本国内	0			S 61	~							0							0					0			

							観測・データ	機器開発を利用し	発、 	計	画期間		新規·拡	<b>充</b> 平	龙成25年	年度実施	方針の記	該当箇所	Ť					分野	別の推進	進戦略で	該当する	5もの					
I To all							, ,	<u>を利用し</u>	7_171						第	第1章			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
担当省庁	項目名	取組の概要	関連事業名	実施主体	観測対象	観測地点	観測	機器開発	データ 利用 研究	始期	~	終期	新規が	太充 第	第1 節	第2節 第3	第25	章 第3章	重 温暖 化	地球 規模 水循環	地球環境	生態系	風水害	大規 模火 災	地震· 津波· 火山	エネル ギー・ 鉱物 資源	森林 資源	農業資源	海洋 生物 資源	空間情報基盤	刊用 等する 対理 情報	気象・ 海象	地球科学
地理院	アジア太平洋地域地殻変動	宇宙測地技術等(GNSS、干渉SAR、VLBI等)を活用し、国連地球規模の地理空間情報管理に関するアジア太平洋地域委員会(UN-GGIM-AP)のもと、アジア太平洋各国の国家測量機関と協働し、アジア太平洋地域におけるブレート運動、地震、火山噴火等に伴う地殻変動を監視する。	_		GNSS観離、高の 間の位置星ーダーに開め 関連、高の 関連、高の 関連を 関連を 関連を 関連を 関連を 関連を 関連を 関連を 関連を 関連を	地域	0		ŀ	H 18	~					C									0					0			
気象庁		日本及びその周辺の地震活動の観測・監視	日本及びその周辺の地震活動 の観測・監視	_	日本及びその 周辺の地震 活動の観測・ 監視	全国	0		0	M 17	~					(	)								0								
気象庁		地震計データの一元的処理	地震計データの一元的処理	_	地震計データ の一元的処 理		0		0 1	H 9	~					C									0								
気象庁		辰茂の凱測及び)一多の一九的収集	震度の観測及びデータの一元 的収集	_	震度の観測 及びデータの 一元的収集	全国	0		0 1	Н 9	~					(									0								
気象庁	地震・津波・火山等に関する 調査及び観測	遠地地震の観測	遠地地震の観測		遠地地震の 観測	長野	0		0 5	S 22	~						)								0								
気象庁		津波(潮位)の観測	津波(潮位)の観測	_	津波(潮位) の観測	全国	0		0 1	T 13	~					(	)								0								
気象庁		東海地震予知のための観測	東海地震予知のための観測	_	東海地震予 知のための観 測	東海地域	0		0 8	S 50	~					(	)								0								
気象庁		全国の火山活動の監視	全国の火山活動の監視	_	全国の火山 活動の監視	全国	0		0 8	S 16	~					C	)								0								
気象庁		国際的な地震データの共有化	国際的な地震データの共有化	_	国際的な地震 データの共有 化	全世界	0		0 8	S 22	~					C	)								0								
気象庁	地震・津波・火山等の観測成 果に基づく適時的確な防災情		次世代地震津波監視システム の整備	_	次世代地震 津波監視シス テムの整備				5	S 21	~														0								
気象庁	報の発表		火山監視・情報センター機能の 強化	_	火山監視・情報センター機能の強化	_			Ş	S 22	~					C	)								0								
総務省	宇宙天気観測		地球・宇宙環境情報可視化システムの開発、電離圏観測ネットワークの構築、国際イニシャティブ・プロジェクトへの積極的かつ主体的な貢献	情報通信研究機構	ジオスペー ス、惑星間空 間、電離圏		0		ŀ	Н 23	~	1 27						0			0												0
総務省	地球・宇宙環境情報可視化シ ステムの開発	地球・宇宙環境情報可視化システムの開発	宇宙天気観測、電離圏観測ネットワークの構築、国際イニシャ トプーグロジェクトへの積極的 かつ主体的な貢献	情報通信研究機構	地球・宇宙環 境情報可視 化システムの 開発	NICTスー パーコン ピュータ			0 1	H 23	~	H 27						0			0												0
総務省	電離圏観測ネットワークの構 築	イオノゾンデ、GPS受信機等を用いた電離圏観測 ネットワークの構築	宇宙天気観測、地球・宇宙環境 情報可視化システムの開発、国際イニシャティブ・プロジェクトへ の積極的かつ主体的な貢献	情報通信研究機構	電離圏	日本国内、ア ジア・オセア ニア域	0		ŀ	H 23	~	H 27						0			0												0
経産省		光学センサ「ASTER」を用いた地球観測、及び「ASTER」データとレバンド合成開ロレーダ「PALSAR」データを用いた利用研究資源探査用光学センサASTER(米国NASAの衛星Terral 上搭載)を利用した全球的なエネルギー・鉱物資源等の観測の実施、及びASTERデータ、合成開ロレーダPALSAR(日本の衛星ALOSI上搭載)データを利用した石油・天然ガス賦存地域発見における特定手法や開発に係る環境監視技術等、データの高度利用に係る研究開発を実施する。			陸域	全球			Ş	S 56	~	1 29																					
経産省	先進的宇宙システム	高分解能・低コストでの地球観測を目指した高性能 小型衛星等の研究開発を行う。	_		陸域	全球			ŀ	H 20		1 26																					
経産省	GEO Gridの情楽	地球観測衛星データの大規模アーカイブを提供し、 さらに各種観測データベースやGISデータと統合し たサービスを安全かつ高速に提供し、しかもこれら のデータをユーザが簡単に使えることを目指した GEO Grid (Global Earth Observation Grid)を構築す る。	産総研運営費交付金の一部 「地球観測グリッド GEO Grid」		光学およびマ イクロ波反射 特性		0		0 +	H 17	~						0	0			0									0			0
気象庁	地球温暖化分野に関する地 球観測連携拠点の運営	環境省と気象庁が共同で、地球温暖化分野に係る 関係府省・機関の地球観測連携拠点の事務局を運 営し、関係府省・機関の連携を推進する。	地球温暖化分野に関する連携 拠点の運営	気象庁、環境省	地球温暖化	_				H 18	~			-	$\prod$		0	-	0	-										$\overline{\Box}$	$\overline{+}$	$\overline{+}$	_
環境省		白し、肉原別目「阪肉の足房で推進する。							H	H 18	~								0														

							観測、	. 機器開 を利用し	発、した研	Ē	十画期間		新規·拡	広充 平	成25	年度実施	も 方針の	の該当箇層	Я					分野兒	削の推進	戦略で	該当する	るもの					
担当省庁	項目名	取組の概要	関連事業名	実施主体	観測対象	観測地点	観測	機器開発	データ 利用 研究	始期	~	終期	新規加	<u></u> 広充		第1章	3節	[2章 第3]	<u>1</u> 注 温明		地球環境	生態系	風水 害	6 大規 模火 災	7 地震・ 津波・ 火山	8 エネル ギー・ 鉱物 資源		農業資源	海洋 生物	空間情報基盤	13 土地 利用 等する 地理 情報	14 記象・ は 海象 オ	
文科省	センチネル・アジア	「だいち」による地震、津波、火山噴火等の大規模 自然災害の観測及びデータ提供を継続するととも に、災害関連情報をアジア太平洋域の現地防災機 関との間で共有する活動(「センチネル・アジア」ブロ ジェクト)を継続する。		宇宙航空研究開発機構	大規模自然 災害	全球	0		0	H 18	~						0						0	0	0								
文科省	モンスーンの豪雨等の研究	モンスーンの豪雨等の研究において、ベトナム、ミャ ンマー、フィリピン等と連携して気象観測を強化	WCRP(AMY, MAHASRI), GEOSS	海洋研究開発機構	風向風速·気 圧·温湿度	インドネシア、 インドシナ、 フィリピン	0			H 21	~							0		0													
経産省	カルボック カル・ブルー・ブルー・ブルー・ブルー・ブルー・ブルー・ブルー・ブルー・ブルー・ブル	資源探査用センサのASTER やPALSAR の全球データをベースにし、リモートセンシングによる全球解析のためのブラットフォームの作成、レアメタルの賦存が期待される地域における集中的な衛星画像の解析、及びボテンシャルのあるレアメタル資源賦存有望地域の抽出・情報提供等を実施する。24年度は西アジア及びオセアニアをデータ対象とする。		産業技術総合研究 所、石油天然ガス・ 金属鉱物資源機構	陸域	全球				H 21	~	H 25																					
気象庁	地磁気観測業務	国際科学会議(ICSU)の下部組織である国際地球電磁気学・超高層物理学協会(IAGA)の推進するインターマグネット計画の枠組みのもと、アジア・太平洋地域のインターマグネット観測所として地磁気の定常観測を実施	地磁気観測業務	気象庁	地磁気	全国3地点 (INTERMAGN ET登録地点)	0			T 2	~							0							0								0
環境省		永久凍土地域における脆弱性評価および適応策の 提言	気候変動影響モニタリング・評価ネットワーク構築	環境省、国立環境 研究所、慶應義塾 大学	モンゴル	2地点	0	0	0	H 18	~			0 0	0			0	0		0	0								0			
総務省		全球測地観測プログラム、国際超長基線電波干渉 法事業、国際GNSS事業等の国際イニシアティブ等 の国際プロジェクトへの積極的かつ主体的な貢献	次世代時空計測プロジェクト	情報通信研究機構	基準点位置、 基準座標系、 地球姿勢パラ メタ	小金井市(東京都)、鹿嶋市(茨城県)	0	0		Н 13	~							0												0			
文科省	研究者等のニーズに応じた情報の発信	研究者等のニーズに応じた情報の管理、発信、提供等を行う。また、合理的なデータ・サンプルの管理、公開・提供を行うため、メタデータの体系的な管理、公開・提供を行うため、メタデータの体系的な管理や、データ公開・提供体制の整備を推進する。	_	海洋研究開発機構	_	_		0		H 18	~										0	0											
文科省	地球超高階人式振隊観測で	超高層大気におけるプラズマや大気の乱れの発生メカニズムを調べるための国際宇宙ステーション (ISS) / 日本実験棟「きぼう」(JEM) 曝露部搭載用地球超高層大気撮像観測センサ (IMAP) で観測を行う。	_	宇宙航空研究開発機構、京都大学	超高層領域での大気光とプラズマ共鳴散 乱光	低•中緯度	0			H 24	~										0												0
文科省	スプライト及び雷放電の高速 測光撮像センサ(GLIMS)	雷放電に伴い雷雲上空で発生するスプライト等の 発光現象を調べるための国際宇宙ステーション (ISS)/日本実験棟「きぼう」(JEM)曝露部搭載用 スプライト及び雷放電の高速測光撮像センサ (GLIMS)で観測を行う。		宇宙航空研究開発機構、大阪大学	高高度放電 発光現象·雷 放電	低•中緯度	0			H 24	~										0											0	0
文科省	ユーラシア寒冷圏における土 壌水分、雪氷諸量等の観測	ユーラシア寒冷圏を中心に土壌水分、雪氷諸量等の観測による大気陸面間の水エネルギー循環過程 について知見を蓄積。	DIAS	海洋研究開発機構	気象要素、土 壌水分、河川 流量、雪氷諸 量	シベリア. モン	0			H 16	~								0	0													
文科省	観測網の構築と観測の実施	パラオ周辺の熱源域における、観測網の構築と雲・降雨システムの三次元構造と発達過程の知見の蓄積に資する観測の実施	_	海洋研究開発機構	水蒸気量、降 水量、同位体 組成		0		0	H 16	~									0													
文科省	室戸岬沖及び釧路・十勝沖の 海底地震総合観測システム整 備、運用	室戸岬沖及び釧路・十勝沖に海底地震総合観測システムを設置し、地震・津波等の常時観測を行う。	_	海洋研究開発機構	地震、津波	室戸岬沖、釧 路・十勝沖	0		0	H 16	~						0								0								
文科省	エコトーンにおける植生動態と気象・人間活動の研究	植生動態のモデリングのためのエコトーンにおける 植生・気象・人間活動の研究を実施する。	総合地球環境学研究所のプロ ジェクト	海洋研究開発機構	気象量, バイ オマス, 家畜 数など	モンゴル	0		0	H 19	~											0											

								機器開を利用し		計	画期間		新規•拉	<b>太充</b> 平		年度実施	方針の	該当箇月	折 1	1 2	1 3	Ι 4	1 5	分里	野別の推議	進戦略で	該当する	るもの   10	11	12	13	14	15
担当省庁	項目名	取組の概要	関連事業名	実施主体	観測対象	観測地点	観測	機器開発	データ 利用 研究	始期	~	終期	新規加	広充 第		52節 第3	3節 第2	章 第3章	章 温暖化	地球規模水循环	地球環境	生態系	風水害	大規模火災	, 地震· 津波· 火山	ェネル ギー・ 鉱物 資源	森林資源	農業資源	海洋 生物 資源	空間情報基盤	土地利用等に対する対理情報		
文科省	生態系炭素循環モデル構築 のための地上検証値の取得	生態系炭素循環モデル構築のために地上検証値を 取得する。	_	海洋研究開発機構	気象量, 植生 の物理量, 土 壌呼吸	岐阜県高山 サイト、山梨 県八ヶ岳サイト	0		0	H 21	~											0											
文科省	海底堆積物コアの解析と地球 温暖化予測研究	過去に温暖であった時期の地球環境変動の実態を 海底堆積物コアに記録された記録から理解し、将来 の温暖化予測のアーカイブデータとして地層記録を 解析する。	_	海洋研究開発機構		オホーツク 海、ベーリン グ海、北極海 下北沖	0	0	0	H 16	~																						0
文科省	関する観測、実験、シミュレー	プレート運動から堆積層内諸現象まで海底下の 様々なスケールの表層現象に関して観測、実験、シ ミュレーションを実施する。	_	海洋研究開発機構	地下IODPに ア、 大、精育に で、 大、 大、 大、 大、 大、 大、 大、 大、 大、 大、 大、 大、 大、	北西太平洋 域、伊豆・小 笠原域、その 他	0	0	0	H 16	~																						0
文科省		地震・電磁気観測等からマントル対流の上昇・下降 域に関する研究を行い、マントル対流モデルと結び ついた地球内部構造モデルの開発を進める。	_	海洋研究開発機構	地震波、電磁気	西太平洋域	0	0	0	H 16	~																						0
	西太平洋域における陸上地 球物理観測網の高度化と高 品質データベースの構築	太平洋域の地球物理観測網として、西太平洋域に おける陸上地球物理観測網の高度化を実施し、地 球内部ダイナミクス研究に広く利用可能な高品質の データベースを構築。	_	海洋研究開発機構	地震波、電磁気	海洋島広帯 域(日本、韓 国、フィリピ ン、インドネシ ア、パラオ、ミ クロネシアな ど)	0	0	0	H 16	~																						0
文科省	地殻マントル進化の包括的理	地殻マントルの進化を包括的に理解するため、沈 み込み帯のダイナミクスに関する観測調査研究や、 科学掘削提案の実効化および得られた掘削コア試 料を用いた研究を実施。	_	海洋研究開発機構		南海トラフ、カナダ・カスカ ディア地震発 生帯	0	0	0	H 16	~																						0
農水省		アジア・アフリカ地域における多様な農業環境を把握するための技術開発を行う。	運営交付金研究(「気候変動に 対応した開発途上地域の農業 技術開発」、「アフリカにおける コメ生産向上のための技術開 発」)	(独)国際農林水産業研究センター	農地	アジア・アフリカ			0	H 23	~	H 27																0					
農水省	ける異常気象等のリスクに強	北東アジア乾燥地草原(モンゴル国)において、放牧に利用可能な草地資源量を評価して地図化する。	運営交付金研究(「北東アジア 乾燥地草原における異常気象 等のリスクに強い持続的農牧畜 業の確立」)	(独)国際農林水産業研究センター	農地	モンゴル国			0	H 23	~	H 27																0					
農水省	農業生態系における生物多 様性の変動メカニズムの解明 と適正管理技術の開発	農業活動が変化した時の生態系の構造及び代表的な生物群集の応答反応を解明し、生物多様性変化の予測手法を開発する。そのために、生物多様性に関する調査データを効率的に登録・共有し、日本生国で比較できる「農業景観調査情報システムRuLIS WEB(ルリス・ウェブ)」を開発、公開している。	農業生態系における生物多様 性の変動メカニズムの解明と適 正管理技術の開発【農林水産 省】	(独)農業環境技術 研究所	生物多様性	日本各地	0		0	H 23	~	H 27		(	0							0									0		
農水省	農業空間情報とガスフラックス モニタリングによる環境動態 の監視・予測	土地利用、植物、土壌、ガスフラックス等の動態の 広域的動的評価のため、新規SAR センサや高解像 度光学センサを含む異種衛星信号の相互関係並び に信号の植生に対する応答特性等の解明と定式化 を行うとともに、評価アルゴリズムの汎用性及び精 度向上のための手法を策定する。	農業空間情報とガスフラックス モニタリングによる環境動態の 監視・予測【農林水産省】	(独)農業環境技術 研究所	作物生産性、 土地利用、植 被、土壌特性	日本全国、アジア			0	H 23	~   +	d 27		(	0	(	0					0								0	0		
国交省	新たな土地利用情報に係る整 備手法の検討及び仕様設計	国土計画の策定、国土政策の推進等に資するデータである土地利用情報を平成26年度より整備するため、情報整備手法の検討及び仕様設計を行う。		国土交通省国土政 策局	土地利用	日本全国				H 24	~	H 25																		0			
地理院		南極地域に関する科学的・基礎的情報の整備に国際的な貢献をするため、精密測地網測量、露岩変動測量、GNSS連続観測等を継続的に実施する。また、氷床を含む表面地形の詳細な3次元地形情報を整備する。	_	_	取組の概要と同じ	南極地域	0			S 31	~					0														0			
地理院	土地条件調査	全国の主な平野部を対象に、各種ハザードマップ作成の基礎資料となる土地条件データを整備する。	_	_	工地未行	国土の主な平 野	$ $			H 16	~			(	0															0			
気象庁	南極昭和基地での定常気象 観測の実施	南極昭和基地での定常気象観測の実施	南極地域観測事業	気象庁	気温、風、日 照、気圧、大 気現象等	南極昭和基地	0			S 32	~					0		0	0		0											0	0

							観測、セデータを	機器開発	き、 :研	計画	期間	亲	f規·拡充	平成2		施方針	の該当箇	所				I -	分野	別の推進	<b>単略で</b>	該当する	るもの	1		1		
担当省庁	項目名	取組の概要	関連事業名	実施主体	観測対象	観測地点	観測 <sup>†</sup>	機器 デ	ータ 利用 5 研究	始期	~ 終	期	新規 拡充	第1	第1章	第3節	第2章 第3	1 3章 温服 化	世球 規模 水循環	地球環境	生態系	風水 害	大規 模火 災	地震· 津波· 火山	8 エネル ギー・ 鉱物 資源	森林資源	農業	海洋生物資源	空間情報異	土地利用	14 気象・ 海象	
気象庁	アジアオセアニア域の包括的 な大気観測	アジアオセアニア域の包括的な大気観測	アジアオセアニア域の包括的な 大気観測	_	エーロゾル	全国3箇所及 び南極昭和 基地	0		s	63	-				0			0													0	
気象庁	海洋二酸化炭素観測網の整 備	海洋二酸化炭素観測網の整備	海洋二酸化炭素観測網の整備	_	温室効果ガス等	北西太平洋	0		s	56	-				0			0														
気象庁	気候変動に対して脆弱な地域 での温暖化影響モニタリング	潮位観測	潮位観測	_	潮位	全国70箇所	0		Т	13	-			0				0				0									0	
気象庁	温暖化影響の観測	潮位観測	潮位観測	_	潮位	全国70箇所	0		Т	13	-			0				0				0									0	
気象庁	観測、データ統合及び情報利 用に関する能力開発	アジア太平洋気候センターの運営	アジア太平洋気候センターの運営	_	気候	_			ОН	1 14	-						(		0												0	
気象庁	対流圏短寿命化学種観測	対流圏短寿命化学種観測	対流圏短寿命化学種観測	_	温室効果ガス等	全国3箇所及 び航空機	0		s	62	-			0	0					0												,
気象庁		温室効果ガス等の観測	温室効果ガス等の観測	_	温室効果ガス等	全国3箇所及 び航空機	0		s	62	-			0	0					0											0	
気象庁		オゾン観測	オゾン観測	_	オゾン	全国4箇所及 び南極昭和 基地	0		s	32	-				0					0											0	
気象庁	エアロゾル、オゾン等大気汚 染物質の観測	エーロゾル観測	エーロゾル観測	_	エーロゾル	全国3箇所及 び南極昭和 基地	0		s	63	-				0					0											0	
気象庁		日射放射観測	日射放射観測	_	日射及び赤 外放射	全国5箇所及 び南極昭和 基地	0		s	7 /	-				0					0		0									0	
気象庁		降水·降下塵観測	降水・降下塵観測	_	降水·降下塵		0		s	51	-				0					0												
気象庁		オゾン観測	オゾン観測	_	オゾン	全国4箇所及 び南極昭和 基地	0		s	32	-				0					0											0	
気象庁	オゾン層の動態解明の観測	紫外線観測	紫外線観測	_	紫外線	全国3箇所び 南極昭和基	0		Н	2 /	-				0					0												
気象庁		温室効果ガス等の観測	温室効果ガス等の観測	_	温室効果ガス 等	全国3箇所及 び航空機	0		s	62	-			0	0					0											0	
気象庁	成層圏における物質輸送の	オゾン観測	オゾン観測	<u> </u>	オゾン	全国4箇所及 び南極昭和 基地	0		s	32	-				0					0											0	
気象庁	長期継続的観測	エーロゾル観測	エーロゾル観測		1	全国3箇所及 び南極昭和 基地	0		s	63	-				0					0											0	
気象庁	海洋環境変動の長期観測	海洋気象観測船による海洋・海上気象の観測	海洋気象観測船による観測			北西太平洋	0		S	22 /	-	_			0		_			0		0									0	
気象庁		海洋気象観測船による温室効果ガス等の観測	海洋気象観測船による観測	_		北西太平洋	0		s	56	-			0	0					0												
気象庁		日射放射観測	日射放射観測	_	日射及び赤 外放射	全国5箇所及 び南極昭和 基地	0		S	7 /	-				0							0									0	
気象庁		潮位観測	潮位観測	<del>_</del>	潮位	全国70箇所	0	$\perp$		1.0	-			0								0									0	
気象庁		沿岸波浪観測	沿岸波浪観測 海洋気象ブイロボットによる観	_		全国6箇所 日本周辺海	0			51	-			0			_	_		<u> </u>		0									0	
気象庁		海洋気象ブイロボットによる観測	測	_	海上気象	域	0		Н	12 -	-	-			0	_						0									0	
気象庁		アルゴフロートによる観測	アルゴフロートによる観測	_	海洋	北西太平洋	0		н	1 12	-				0							0									0	
気象庁	異常気象現象の探知のため の観測網の高度化	海上気象観測データの収集	海上気象観測データの収集		海上気象	北西太平洋	0		М	1 21	-			0								0									0	
気象庁		海洋気象観測船による観測	海洋気象観測船による観測	_	海洋·海上気象	北西太平洋	0		s	22	-				0							0									0	
気象庁		データブイ協同パネル(DBCP)主要海洋気象センターの運営	データブイ協同パネル(DBCP) 主要海洋気象センターの運営		海洋·海上気象				ОН	1 4	-						0					0									0	
気象庁		世界気象機関(WMO)CLIMATリードセンターの運営	世界気象機関(WMO)CLIMAT リードセンターの運営	_	地上気候	全球			ОН	1 11 /	-						0					0										
気象庁		NEAR-GOOS地域リアルタイムデータベースの運用	NEAR-GOOS地域リアルタイム データベースの運用	_	海洋	北東アジア			ОН	8 /	-						0	0														

							観測、	機器開を利用し	発、	計画期間			新規·拡		充 平成25年度実施方針の該当					分野別の推進戦略で該当するもの													
+D 7/4							Í	מתניזב	21 - WI					-	第1章	章		+	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
担当省庁	項目名	取組の概要	関連事業名	実施主体	観測対象	観測地点	観測	機器開発	データ 利用 研究	始期	~	終期 :	新規拡	充 第1 節	第2館	節 第3節	第2章	第3章	温暖化力	地球 規模 〈循環	地球	生態系	風水害	大規 増模火 洋 災	也震・ 津波・ 火山	エネル ギー・ 鉱物 資源	森林資源	農業資源	生物	空間情報基盤	利用等はある。	気象・ 海象	地球科学
海保	海洋汚染の調査	海洋汚染を防止し、海洋環境を保全する観点から、 外洋に面した内湾域から外洋域までの汚染物質の 広がりの状態を把握するため、海水や海底堆積物 中の油分、ポリ塩化ビフェニル(PCB)、重金属、有 機スズ化合物、化学的酸素要求量(COD)に関する 調査を実施する。	海洋汚染の調査	海上保安庁海洋情 報部	海水及び海 底堆積物	外洋に面した 12の内湾域 から外洋域に かけての定点	0			S 47	~										0												
海保		海溝、南海トラフ等のプレート境界において、巨大 地震発生のシグナルである地殻歪を観測するた め、海底基準局を整備し、現在22点で観測を実施 する。	地震・火山噴火予知計画への参加	海上保安庁海洋情 報部	地殼変動	日本海溝・南 海トラフ等22 点	0			S 40	~														0								
海保	海洋測地の推進	下里水路観測所において、人工衛星レーザー測距 (SLR)観測を実施しており、離島を含めて日本列島 の位置を世界測地系に結合して求める海洋測地を 推進する。		海上保安庁海洋情報部	地殼変動	和歌山県那智勝浦町	0		:	S 55	~														0								
海保	地震予知計画・海洋測地の推 進	地震発生に至る地殻活動の解明及び地殻活動の 予測シミュレーションとモニタリングのための観測と して地殻変動監視、験潮、海底地殻変動観測を実 施する。また、南西諸島及び南方諸島の海域火山	地震予知計画・海洋測地の推 進	海上保安庁海洋情報部 海上保安庁海洋情	地殼変動、潮汐	点、八丈島ほ か20験潮所 南方諸島・南	0		:	S 40	~														0						_		
		において定期巡回監視を実施する。		報部	火山監視	西諸島方面 の海域火山 日本~ニュー	0			S 40	~	+													0					$\dashv$	_		
		    短波レーダー等により、日本管轄海域や西太平洋	西太平洋海域共同調査	海上保安庁海洋情報部 海上保安庁海洋情	水質、海流	ギニア〜日本の観測定線				S 58	~	$\sqcup$																		$\rightarrow$		0	
海保	海象観測等の実施	海域の海洋観測を実施するとともに、八丈島などに設置した験潮所において潮位観測を実施する。ま	海象観測 東京湾再生プロジェクト	報部 海上保安庁海洋情	海流、潮流、	日本近海 東京湾	0			S 23 H 14	~	$\forall$		+	+			+	+				+		+		$\overline{}$			$\dashv$	+	0	
		た、調査結果をホームページで公表するとともにE 本海洋データセンターで管理・提供している。		報部 海上保安庁海洋情 報部	海流	日本近海	0			H 12	~	$\forall$			+			+	+												+	0	
			地震予知計画参加	海上保安庁海洋情 報部	潮汐	八丈島ほか 20験潮所	0			S 40	~														0						$\Box$		
海保	南極地域観測事業	南極海域における大陸・海洋地殻の進化過程解明の基礎データとしての活用及び海図作製のため、海底地形調査を実施するための基本観測として、また、地殻変動や海面水位長期変動監視を目的として昭和基地において潮汐観測を行う。	南極地域観測事業	海上保安庁海洋情 報部	海底地形、潮汐		0			S 40	~								0														0
環境省	温室効果ガス観測データの データベース化	人為的な地球温暖化予測の基盤となる情報を整備 するための観測データと社会経済データの統合	地球環境研究センターデータ ベース事業	国立環境研究所	大気温室効 果ガス	沖縄県波照間、北海道落石岬、日本-オーストラリア間			0	H 5	~						0		0			0											
環境省		アジア各地の陸域生態系における熱・水・二酸化炭素フラックスの観測点情報と観測データのとりまとめおよび情報発信		国立環境研究所	陸域炭素収 支	_			0	н 11	~			0				0	0			0											
		炭素循環と生態系撹乱の相互作用を解明するための陸域炭素循環観測拠点(炭素移動量観測塔を有する地点等)での生態系長期モニタリングの実施	基盤整備(地球環境の戦略的 モニタリング)	国立環境研究所	森林炭素収支	山梨県(富士 吉田)、北海 道(天塩・苫 小牧)	0	0	1	H 13	~			0	0				0			0											
環境省	地球規模水循環統合観測シ ステムの構築	水循環変動の解明と予測に重要な地域に拠点観測 網の設置	GEMS/WATER事業 湖沼長期モニタリング事業	国立環境研究所	水質、微量金属、生態系	摩周湖、霞ヶ浦	0		0	H 6	~ Н	27		0								0											
環境省	アジア地域における巨大都市 の大気汚染、広域大気汚染、 半球規模大気汚染等の実態 とトレンドの把握	大気汚染物質等のトレンドの把握	地球環境研究センターモニタリング事業	国立環境研究所	窒素酸化物、 硫黄酸化物、 オゾン	沖縄県波照 間 北海道落石			0	H 5	~				0						0												
環境省	アジア地域における巨大都市 の大気汚染、広域大気汚染、 半球規模大気汚染等の実態 とトレンドの把握	大気汚染物質等のモニタリング	地球環境研究センターモニタリング事業	国立環境研究所	ハロカーボ ン、有機硫黄 化合物、炭化 水素類	沖縄県波照 間 北海道落石	0		-	H 16					0						0												
環境省	大気経由のPOPs越境汚染の 監視	難分解性有機汚染物質による広域汚染の実態とトレンドを把握する観測体制の整備	地球環境研究センターモニタリング事業	国立環境研究所	残留性有機 汚染物質 (POPs)	沖縄県波照間		0		H 16	~				0						0												
総務省	※組測は紙の研究関発 しんしょう	ゲリラ豪雨等の極端気象の前兆となる晴天気流の 変化をドップラーライダーによって把握するシステム の開発とそれによるデータ利用手法の開拓。	高周波電磁波センシング技術 の研究開発	情報通信研究機構		国内	0	0	0	H 13	~		C	0									0										
環境省	温室効果ガス観測技術衛星	観測センサーの高度化と地上システムの統合的な高度化を行い、現行「いぶき」による地上観測における空白域の削減、全球の温室効果ガスの挙動をより高精度かつ稠密に把握するとともに、地域別の吸収・排出量の推定精度を高める。	「いぶき」後継機開発体制の整備	国立環境研究所	二酸化炭素、 メタン、一酸 化炭素	全球	0	0	0	H 24	~				0		0	0	0														
文科省		温室効果ガス観測技術衛星「いぶき」(GOSAT)の 後継機となるGOSAT-2の研究開発に着手する。	_	宇宙航空研究開発 機構				0		H 24	~			0	0			0	0		0			0			0						0
水産庁		我が国の藻場・干潟の炭素吸収機能の定量的評価を行うとともに、全国調査による炭素吸収量の算定等を行う。		(独)水産総合研究センター	海藻類、水温 や栄養塩等 の海洋環境	瀬戸内海	0		0	H 21	~ Н	25		0	0				0		0								0	0			

			観測、機器開発、 データを利用した研 計画期間 新規・拡充 平成25年度実施方針の該当箇所											の該当箇所 分野別の推進戦略で該当するもの																			
							データ	<u>を利用し</u> 	<u>た研  </u>	- 1	1,7,1,2,		491790 332	175	第1:		1	T	1	2	3	4	5				9		11	12	13	14	15
担当省庁	項目名	取組の概要	関連事業名	実施主体	観測対象	観測地点	観測	機器開発	データ 利用 研究	始期	~	終期	新規加	太充 第 節	1 第21	節 第3節	第2章	章 第3章	温暖化	地球規模水循環	地球環境	生態系	風水害	模火	津波・	エネル ギー・ 鉱物 資源	森林資源		海洋	空間情報基盤	土地利用	気象・	地球
環境省	生態系・生物多様性の観測	水温上昇によるサンゴ分布変化の観測	地球環境保全等試験研究費 「船舶観測による広域サンゴモ ニタリングに関する研究」 環境研究の基盤整備 地球環境の戦略的モニタリング	国立環境研究所	サンゴ	日本	0		0	H 23	~	27		0 0					0			0							0				
環境省	情報への統合化および統合	国内外の生態系・生物多様性観測ネットワークに よって蓄積された生物情報を用い、データの標準 化・マッピング等により統合し、情報の利活用を促 進	文部科学省大学発グリーンイノ ベーション創出事業「グリーン・ ネットワーク・オブ・エクセレン ス」(GRENE)	東京大学、北海道大学、国立環境研究所、東北大学	陸域生態系	_			0	H 23	~	27		С	1		0		0			0											
環境省		ラオス、タイ、カンボジアの湖沼、ダム貯水池での定 期的な(3-4か月毎)水質・生物生産調査	環境研究総合推進費課題D- 1202	国立環境研究所	水質、土壌、 生物(一次生 産等)	メコン川流域 (トンレサップ 湖および8つ のダム貯水 池)	0	0		H 24	~	26			0							0						0					
文科省	海溝型巨大地震・巨大津波の 実態解明に向けた地質・地球	東北地方太平洋沖地震震源域および、隣接の千島 海溝から房総沖にかけての周辺海域において、高 分解能反射法探査システムや海底地震計による海 域地球物理観測や曳航体・遠隔操作型無人探査機 (ROV)等により過去の地震像の実態を把握する。	_	海洋研究開発機構	海底下地殻 構造、堆積 物、地質、地 球物理データ (温度、圧力 など)	千島海溝、日本海溝、房総沖	0	0		H 25	~		0			0									0								
農水省	量算定基礎調査事業(指導・		農地土壌温室効果ガス排出量 算定基礎調査事業(指導・とり まとめ業務)	(独)農業環境技術研究所、農研機構(中央農研、畜産草地研究所)、日本土壌協会	存量、温室効	日本各地	0		0	H 25	~	32	0						0														
水産庁		大型クラゲ等有害生物の出現状況を把握するとと もに。出現予測・情報提供を行う。	有害生物漁業被害防止総合対 策事業	(独)水産総合研究センター	クラゲ等有害 生物、水温や 栄養塩等の 海洋環境	日本周辺海域、東シナ海	0		0	H 25	~	27	0		0			0				0											
国交省	定した物理探査	火山地域における山体崩壊や火山噴火に伴う火山 泥流の発生に関わる脆弱な地質の分布、地下水の 集中状況などの火山体内部を推定するため、物理 探査やボーリングを実施する。		国土交通省水管 理·国土保全局	地質、地下水	国内火山			0	H 25	~	26	0			0									0								
環境省	生態系・生物多様性の観測	生物多様性推定を行うための土地利用の観測	環境研究の基盤整備 分野横断型研究	国立環境研究所	土地利用	日本、沖縄県	0		0	H 25	~	27	0	С								0								0	0		
環境省	アジア陸域の指標生態系における温暖化影響の長期モニタリング研究	アジアの陸域における温暖化影響を強く受け、その影響を敏感に検出できる指標生態系に着目し、生態系の物理環境、構造・機能及び生物多様性に関する長期観測ネットワークの基幹を構築し、とりわけ、データ蓄積が不足または空白のアジア草原・高山帯・熱帯林生態系に関する観測を強化し、植物の季節相と多様性を重視したアジア陸域生態系の温暖化影響に関する包括的評価手法を開発する。	地球環境保全試験研究費	国立環境研究所	植物種多様性、生態系炭	青海高山草原、チベット高山東原、チベット高山東原、モンゴル草原、モンゴル草ア低、モンマレーシャー・シー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	0	0	0	H 25	~	29	0	0 0	0		0	0	0		0	0										0	